

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言語活動を通して、日本語で深く理解し豊かに表現する資質・能力を育成する。特に、①実社会に必要な国語の知識・技能 ②論理的思考と豊かな想像力 ③言葉の価値への深い認識と、その言葉を通して他者と関わる積極的な態度 の三つを養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語彙を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の記載の仕方、その必要性について理解を深め、できるようになること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①～④の成績 ・授業時の小テストの成績 ・知識に関する発言内容 ・提出課題の完成度	・定期考査①～④の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・思考を問われた際の発言内容 ・プリントの記述内容	・授業での聞く姿勢 ・ノートの作り方、プリントの書き込み方 ・話し合いの場面での発言内容 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数				
前期	4月	【理解】『「未知』はいくらでもある』 【表現】話し方の工夫	定期考査①	22				
		【理解】言語としてのピクトグラム 【表現】書き方の基礎レッスン						
	5月	【理解】十六歳の時 【表現】待遇表現						
		【理解】身近な製品の取扱説明書を作成する 【表現】「間」の感覚						
	6月	【理解】「弱いロボット」の誕生 【表現】論理的な表現			定期考査②	18		
		【理解】ナマケモノになる 【表現】情報の探索と選択						
後期	7月	【理解】言葉の海のオノマトペ 【表現】地域の魅力を紹介する	定期考査③	20				
		【理解】臆病な詩人、街へ出る 【表現】スピーチで自分を伝える						
	8月	【理解】イースター島になぜ森がないのか 【表現】情報源の明示			定期考査④	18		
		【理解】自校の生徒の生活実態を調査する 【理解】AIは哲学できるか						
	9月	【理解】ナマケモノになる 【表現】情報の探索と選択					定期考査③	20
		【理解】言葉の海のオノマトペ 【表現】地域の魅力を紹介する						
10月	【理解】臆病な詩人、街へ出る 【表現】スピーチで自分を伝える	定期考査④	18					
	【理解】イースター島になぜ森がないのか 【表現】情報源の明示							
11月	【理解】自校の生徒の生活実態を調査する 【理解】AIは哲学できるか			定期考査③	20			
	【理解】ナマケモノになる 【表現】情報の探索と選択							
12月	【理解】言葉の海のオノマトペ 【表現】地域の魅力を紹介する					定期考査④	18	
	【理解】臆病な詩人、街へ出る 【表現】スピーチで自分を伝える							
1月	【理解】イースター島になぜ森がないのか 【表現】情報源の明示	定期考査③	20					
	【理解】自校の生徒の生活実態を調査する 【理解】AIは哲学できるか							
2月	【理解】ナマケモノになる 【表現】情報の探索と選択			定期考査④	18			
	【理解】言葉の海のオノマトペ 【表現】地域の魅力を紹介する							
3月	【理解】臆病な詩人、街へ出る 【表現】スピーチで自分を伝える					定期考査③	20	
	【理解】イースター島になぜ森がないのか 【表現】情報源の明示							

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・教科書やノート(プリント)、便覧、タブレットなどを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編 現代の国語(第一学習社) 常用漢字オールクリア(尚文出版)
学習課題集 新編 現代の国語(第一学習社) 新訂国語図説六訂版(啓隆社)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化①	単位数	1 単位
-----	-------	-----	------

1 科目の目標

古典を中心に、日本語の文章を理解し表現する力を育てる。特に、①古典（古文・漢文）の読解に必要な知識と技能②文章を通し、他者と関わって想像したり思考を深めたりする力③古文や漢文の世界に親しみ、自らの言語表現を豊かにする姿勢 の三つの力を養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとめたり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	古文への招待いろは歌	定期考査①	11
	5月	古文冒頭選		
	6月	古文の言葉と仮名遣い		
	7月	児のそら寝①	定期考査②	
	8月	児のそら寝②		
9月	十二の「子」文字	定期考査④	9	
後期	10月			古典の魅力
	11月			徒然草
	12月			枕草子
	1月			伊勢物語①
	2月	伊勢物語②		
3月	漢文に親しむ			

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。 ・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。 ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。 ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。 ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編言語文化改訂版（大修館書店） 五訂版常用漢字オールクリア（尚文出版）
 新編言語文化改訂版学習ノート（大修館書店） 新訂国語図説六訂版（啓隆社）

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化②	単位数	1単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言語文化①で学習したことを前提とする。言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①日本の言語文化古典から現代までのに対する理解を深めること。②他者との関りの中で伝え合う力を高めること。③言葉を通して他者と関わる態度を育てること。この三つの力を養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとめたり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①～④の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度	・定期考査①～④の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容	・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容		考査範囲	時数
前期	4月	言語文化と古文	古文特有の表現を理解し、古語と現代語の関係を知る。	定期考査①	11
	5月	徒然草①	文章の内容をとらえ、古文の世界を楽しむ。		
	6月	伊勢物語①芥川	作品の背景を知り、内容をとらえる。		
	7月	伊勢物語②筒井筒	解釈を深めた上で、文章を評価する。	定期考査②	
	8月	羅生門①	内容をとらえると共に、辞書についての関心を深め、使えるようにする。		
9月	羅生門②	文章の構成・展開を理解する。			
後期	10月	言語文化と漢文	漢文特有の表現を理解し、漢語と現代語の関係を知る。	定期考査③	10
	11月	漢文に親しむ	漢文の基礎の振り返り点書き下し文の理解。		
	12月	現代に生きることば	漢文の基礎学力の訓読ができる力をつける。		
	1月	とんかつ①	短編小説を読み、他者の感情を理解し、自分の考えを深める。	定期考査④	
	2月	とんかつ②	短編小説を読み、他者の感情を理解し、自分の考えを深める。		
	3月	古人に学ぶ	格言・思想に触れ、生き方を考える。		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編言語文化(大修館書店)	新編言語文化学習ノート(大修館書店)
常用漢字オールクリア(尚文出版)	新訂国語図説六訂版(啓隆社)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	漢字と文化	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

漢字の成り立ちや意味、用法等を理解することで、豊かな言語感覚を育むことを目標とする。また、実用場面において適切な言葉遣いや表記が出来るようになることも重視し、様々な表現に対応する言葉の獲得を目指す。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)漢字の成り立ちや歴史的背景を理解し伝えること。 (2)実社会において適切な表現ができるよう、語彙を増やし、読み書きと意味の理解が深まること。 (3)熟語同士の関係性を理解し、言い換えや表現の豊かさについて認識が深まること。	(1)興味関心のある漢字の成り立ちについて、調べ学習を元に自分の言葉で、成立背景を説明すること。 (2)場面に応じて、適切かつ個性的な表現を行うこと。 (3)相互評価を通じて、相手の表現の良さを認め、自己の表現をより豊かなものにする。	(1)授業の説明をきちんと聞き取るようとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業時の小テストの成績 ・ 授業中の発言内容 ・ 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめ記録 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ ノートの作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数		
前期	4月	【理解】基礎編1～4回 基本的な漢字の読み書きの確認を通して、自分の語彙力を把握する。	定期考査①	22		
		【表現】難易語句の説明 難解な語句の意味を調べ、きちんと説明できるようにする。				
	5月	【理解】基礎編5～8回 同音異字や相対字を理解する。				
		【表現】本文要約(1) 実用的な文章を読み、キーワードに着目して要約を行う。				
	6月	【理解】必修編1～4回 故事成語について理解を深め、適切な使い方を身に付ける。			定期考査②	18
		【表現】慣用句を用いた文 会話やスピーチにおいて、上手な慣用句の使い方ができるようにする。				
7月	【理解】必修編5～8 ことわざの中にある知恵を読み解き、適切な使い方を学ぶ。					
	【表現】本文要約(2) 外来語を多用した文章を、漢語の表現に置き換えて、要約する。					
8月	【理解】チェックリスト 前期学習のまとめ(1)、語句の意味確認。					
	【理解】完成編1～4回 漢字検定2級程度の漢字の読み書きを習得する。					
後期	9月	【表現】場に応じた敬語表現 職場における敬語表現を中心に、会話原稿をつくる。	定期考査③	20		
		【理解】完成編5～8回 難読漢字の読み方、熟語の対義語を習得する。				
	10月	【表現】漢語を用いた韻文 山月記を教材に、漢語を用いた文章、漢詩文を理解する。				
		【理解】対策編1～2回 課題作文を書くための基礎的な知識を再確認する。				
	11月	【表現】課題作文のテーマ ジャンル別に課題作文のテーマを選定し、メモを作る。			定期考査④	18
		【理解】対策編3～4回 手紙文・電話の応対について基本的な方を習得する。				
	12月	【表現】挨拶状の作成 時候の挨拶にも留意しつつ、的確に用件を伝えられる挨拶状をつくる。				
		【理解】対策編5～9回 課題作文のポイントを理解し、段落構成を検討する。				
	1月	【表現】課題作文 課題作文を書き、自己添削や相互評価を行う。				
		【理解】対策編10～12回 現代用語の理解を深める。				
	2月	【表現】面接練習 面接試験を想定し、練習を行う。				
		【表現】まとめ 語彙力や用法について1年間の復習を行う。				

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・ 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・ 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

プレゼミ総合国語(浜島書店)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	論述の基礎	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

新聞のコラムや社説を主な教材として扱いながら、文章の構成を把握して要約の技術を高め、論の要旨を読み取る力をつけることを目指す。他者の考えを理解するとともに、自らの意見を持つことの大切さに気づき、筆記・口述で論述ができるようにする。これらの活動により、社会生活を営むために必要なものの見方を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度
	(1) 論理的な文章を書く上で必要な語彙力を身に付けることができること。 (2) 新聞コラムや社説を読解し、的確な要約ができること。 (3) 自らの意見をわかりやすく伝えられる文章構成ができること。	(1) 新聞記事等を通して、社会問題に関心をもち、自分の考えを深めることができること。 (2) 推敲や相互評価により、自己の表現上の特徴を知り、より良い表現ができるようになること。 (3) 自分の考えを説明する上で必要となる具体例や統計資料等を的確に選択できるようにすること。	(1) 授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2) 新聞のコラム等を自発的に読み、内容を理解し自分の考えをまとめる努力をしていること。 (3) 自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業時の提出課題の成績 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめの内容 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ 提出課題の作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数		
前期	4月	【理解】 評論的文章の語句	定期考査①	22		
		【表現】 新聞コラムの書写				
	5月	【理解】 評論的文章の構成				
		【表現】 感想文と言見文				
	6月	【理解】 新聞コラムの読解(1)			定期考査②	18
		【表現】 段落の見出し(1)				
7月	【理解】 新聞コラムの要約					
	【表現】 段落の見出し(2)					
8月	【理解】 新聞コラムの読解(2)					
	【表現】 社説の筆写					
9月	【理解】 現代用語の理解	定期考査③	20			
	【表現】 社説の要約					
10月	【理解】 社説の読解			定期考査④	18	
	【表現】 社説の要約					
11月	【理解】 報道番組の構成					
	【表現】 報道記事の要約					
12月	【理解】 テーマ別論述(1)					
	【表現】 小論文演習(1)					
1月	【理解】 テーマ別論述(2)					
	【表現】 小論文演習(2)					
2月	【理解】 テーマ別論述(3)					
	【表現】 小論文演習(3)					
3月	【表現】 1年間のまとめ					

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・ 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・ 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新聞で力をつける「コラムと論説」演習ノート第5集(啓隆社)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代文	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

「現代の国語」での学習を発展させ小説、随筆、評論文を読むことで語彙力・読解力を高め、また様々な時代、世界、感じ方考え方を知り、理解し味わいながら、広く自らの生き方についての考えを深め、まとめる。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)文章を様々な文章を読むことを通して、語彙力を高め、語感を磨く。 (2)様々な文体に於けるその表現効果について知る。 (3)作品に現れる時代背景について理解する。 (4)難解な語句についての意味を確実に理解する。	(1)作品の背景を踏まえた上で、内容の理解を深めること。 (2)筆者の主張に対して、自分の考えをまとめ適切に表現すること。 (3)作品を味わい、自分の視野を広め、様々な世界、社会のあり方、自分の生き方を見つめ、それをまとめること。	(1)授業に出席し、学習する姿勢ができていること。 (2)ノートやメモを取り、内容の理解に努めようとしていること。 (3)作品ごとに自分なりの考え、意見をまとめようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようとしていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①～④の成績 ・提出レポートの完成度	・定期考査①～④の成績 ・提出レポートの内容 ・授業中の発言内容	・授業に出席し積極的に取り組む姿勢 ・授業での発言、人の意見を聞く態度

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	2小説を楽しむ(一) 「ナイン」	定期考査①	22
	5月			
	6月	現代の恋 近代の恋 古典の恋		
	7月	3詩を味わう 「永訣の朝」		
	8月 9月	5社会に生きる 「その日東京駅五 時二十五分発」		
後 期	10月 11月 12月	4名作を読む 「山月記」	定期考査③	20
	1月	5社会に生きる 「神去なあなあ日 常」	定期考査④	18
	2月	2小説を楽しむ(二) 「待合室」		
	3月			

5 学習に当たっての注意とアドバイス

- ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨む。
- ・教科書やファイル、タブレット(使用時)などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。

6 教科書・副教材

新編文学国語(大修館書店)	新編文学国語学習ノート(大修館書店)
常用漢字オールクリア(尚文出版)	新訂国語図説六訂版(啓隆社)

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	わかる国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

・ 中学までに学習した内容の復習を中心に授業を行う。日常生活で役立つ知識や論理的な考え方などの基礎を身につける。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)基礎的な理解に必要な語句を増やし、的確に使えるようになる	(1)そのときの話題に対して情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、考えを広げたり深めたりできる	(1)説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)課題を設定し、解決しようとしていること
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業時の小テストの成績 ・ 授業中の発言内容 ・ 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～④の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめ記録 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ ノートの作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考 査 範 囲	時 数 (予 定)		
前期	4月	文の構造	単語・文節・自立語・付属語・主語と述語	定期考査①	22		
	5月						
	6月	修飾と被修飾	修飾語・副詞の呼応・言葉のつながり				
	7月						
8月	文と文の関係	接続語・指示語	定期考査②	18			
9月							
後期	10月	論理的関係			イコールの関係・対立関係・因果関係	定期考査③	20
	11月						
	12月	論理的な読解	文章の論理構造・要約	定期考査④	18		
	1月						
	2月						
3月	心情問題	心情把握・詩の読解					

4 評価の方法

学習への取り組み………授業参加の姿勢(欠席・遅刻・早退のない真剣な取り組み)

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 授業はプリント学習・演習解説が中心であるので、授業をしっかりと聞き、実際に手を動かして問題を紙の上に解いてみる。
- ・ 基本的には小中学校の内容なので、人に聞くことをためらわず問題を理解して解き進める。

6 教科書・副教材

教科書…不使用 ・ 教科担当者の配布するプリント

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	伝える国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

演習を通して話す・聞く・読む・書くという表現力を身につけるとともに、自分の考えを伝える技能や態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	(1) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2) 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3) 引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1) 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2) 論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1) 授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2) ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3) 各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4) 自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～④の成績 授業時の小テストの成績 授業中の発言内容 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～④の成績 授業の振り返り記録 単元のまとめ記録 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での聞く態度 授業での話す態度 ノートの作り方 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数	
前期	4月	1. 書いて伝える (副教材を適宜取り入れる)	○整った文章を書くための基本的事柄の学習 ・漢字、仮名遣い、表記の仕方 ・係り受け ・文末表現の統一 ・書き言葉と話し言葉 ・適切な敬語 ・原稿用紙の使い方	定期考査①	22
	5月				
	6月		○わかりやすい文章を書くための学習 ・長すぎる文を簡潔に ・読点を効果的に使う ・曖昧な文章を避ける ・接続詞の使い方 ・作文演習	定期考査②	18
	7月				
8月	2. 小論文・ レポート入門	○小論文の書き方 ・小論文とは何か ・資料を読み取って書く ・段落構成の仕方 ・小論文演習	定期考査③	20	
9月					
後期	10月	3. 会話・議論・発表 4. まとめの学習	○相手に伝える工夫 ・手紙、はがき、電話 ・相手や場面に応じた会話 ・プレゼンテーションの工夫	定期考査④	18
	11月				
	12月				
	1月				
	2月				
3月					

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。
--

6 教科書・副教材

国語表現 (大修館書店) 国語表現基礎練習ノート (大修館) パスポート国語必携国語常識の演習と確認五訂版 (桐原書店)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。